

## さくら市議会広報委員会視察研修報告書

- 日 時 平成28年1月15日（金） 10時00分～11時30分  
14時30分～16時00分
- 視察先 埼玉県久喜市、東京都あきる野市
- 参加者 (委員長) 笹沼昭司 (副委員長) 岡村浩雅  
(委員) 大河原千晶 櫻井秀美 石原孝明 加藤朋子  
石岡祐二 渋井康男 角田憲治  
(事務局) 議事課長 川崎保成 議事係 大貫哲男

### 【久喜市の概要】

久喜市は、関東平野のほぼ中央埼玉県の東北部にあり、都心から約50キロ圏に位置している。

東は幸手市、茨城県五霞町、南は杉戸町、宮代町、白岡市、蓮田市、西は鴻巣市、桶川市、北は加須市、茨城県古河市と接している。

平成22年3月23日に久喜市、菖蒲町、栗橋町、鷲宮町の合併により、人口15万7千人を有する埼玉県東部の拠点都市として誕生した。

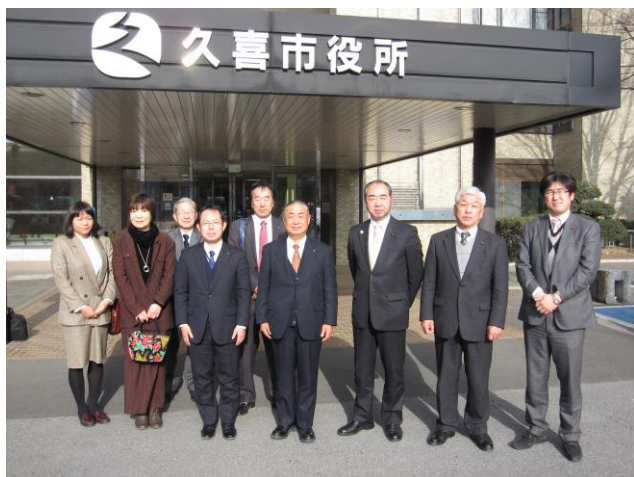
### 研修内容

久喜市議会広報委員会は、市民の皆様にも読んでもらえる広報紙を目指し、議長、副議長を含む、各党派からまんべんなく選任された10名の委員で構成されている。

平成26年4月の改選後からは、議会だよりの印象を変えようと、題字を市内高校の書道部に依頼するといったことや久喜駅でのインタビューのために委員自ら市内に取材に行くなど改善がなされた。また、18歳選挙権が施行されることから、挿絵を用い「投開票の現場」をわかりやすく説明する特集など、若者に興味をもってもらえる内容としているものもあった。また配布方法は、市内を4地区に分け、市役所支所→行政区長→班長というルートで全戸配布を行っている。

研修時には、No.18からNo.23まで見せて頂いたが、回を追うごとに努力の後の後が伺われた。

本市としても、さらに市民参加型の議会だよりを目指したい。



## 【あきる野市の概要】

あきる野市は、都心から40～50キロメートル圏に位置し、東は福生市、羽村市、西は檜原村、奥多摩町、南は八王子市、北は日の出町、青梅市に接している。

平成の大合併の先駆けとして平成7年9月1日に秋川市と五日市町の合併により誕生し、20周年を迎えた。

市内には、秩父多摩甲斐国立公園内にある秋川溪谷、東京サマーランドなどがある。

## 研修内容

あきる野市においては、「見やすい！読みやすい！誌面づくり」を目指し、広報広聴委員会のなかに小委員会を設け、平成23年10月から平成25年1月まで調査研究を行い本格的なリニューアルを行った。その結果、「見やすい！読みやすい！誌面づくり」のため文字を大幅カットし、議案審議においては、おおむね3つを取り上げ、わかりやすい文章に置き換え、写真付きで説明などに変更した。一般質問においても、一問一答方式を採用し、写真サイズを統一するなど統一感を出した。また、発行号ごとにターゲットを替え、すべての年代に読んでもらえる、座談会や小学校リレーなどのコーナーも設けた。表題も「ギカイの時間」とし、斬新なイメージの市議会だよりとなっている。

リニューアルの効果は、マニフェスト大賞実行委員会主催の第8回マニフェスト大賞（ネット選挙・コミュニケーション戦略賞）において優秀賞を受賞するまで評価が高まった。

時間をかけただけあり、大変素晴らしい議会だよりである。真似できることは、どんどん真似してもよいとお言葉を頂いており、さくら市議会だよりの参考としたいと思われた。

